

# 学術情報リテラシー教育 —本学初年次教育の実践例—

都留文科大学 日向良和  
平成22年度公大協研修会  
2010. 9. 3

## 目次

1. 県内大学の新生ガイダンス
2. 都留文科大学のガイダンス体系
3. 情報リテラシーと図書館ガイダンス
4. 新しい「利用者ガイダンス」



## はじめに<sup>1)</sup>

高田流  
発想

「モノそのもの」ではなく、「モノの効果」を伝える  
～例えば「ICレコーダー」のセールス～



「会議や講演をきれいに録音できる  
高性能が売り物です!」



「共働き家庭でのお子さんとの  
コミュニケーションに最適です!」

## 1. 県内大学の新生ガイダンス

- ▶ 平成19年11月に県内大学・専門学校図書館18館を  
質問紙調査(山梨県の図書館2006より)<sup>2)</sup>
- ▶ 調査の目的
  - 県内各学校のガイダンス概要を把握
  - 新生ガイダンスは差が少ないと思われる
  - 課題等を明らかにし、図書館サービス方針検討の一助に

## 1. 県内大学の新生ガイダンス

- ▶ 主なガイダンス内容(7図書館以上回答)

貸出・返却法	書架での資料探索法 (書架排列)
相互協力	図書館の場所
館内PC利用	図書館の意義・目的
館内機器等利用法	レファレンス

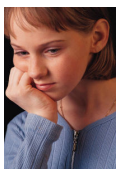
## 1. 県内大学の新生ガイダンス

- ▶ オンラインチュートリアルはなし。
- ▶ 新生ガイダンスではガイダンステキストや利用案内  
を主に利用している。
- ▶ 他にも、ゼミ単位、3年生以上、4年生以上と対象学年  
や、内容を論文執筆のための文献調査、データベース  
に絞ったガイダンスを実施。

## 1. 県内大学の新生ガイダンス

### 課題

1. 必修の授業になかなかみこめない
2. 職員のスキルアップ
3. 盛り込む内容と時間の兼ね合い
4. 任意参加者が少ない
5. 職員対応の限界
6. 学生の理解の限界
7. 施設の限界
8. ガイダンス内容を忘れる??



## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

種類	ねらい	概要	テキスト
①オリエンテーション(30分) 新生全員 4月	図書館の基本的な紹介	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館の概要目的</li> <li>2. 館内紹介</li> <li>3. 貸出・返却</li> <li>4. 相互協力</li> <li>5. データベース</li> <li>6. NDC</li> <li>7. 利用上の注意</li> </ol>	利用案内 プロジェクタで 投影

## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

種類	ねらい	概要	テキスト
②ツアー(50分) 新生 4月～5月	大学所蔵の資料を見つけられる 資料の配置の把握 図書館の利用法案内	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. OPAC検索</li> <li>2. 館内各階層配架場所</li> <li>3. 資料の排列</li> <li>4. 自動貸出装置</li> <li>5. 電動書架</li> </ol>	利用案内 アンケート 年間ガイダンス案内

## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

種類	ねらい	概要	テキスト
③基礎編(90分) 新生 4月～7月	レポート・論文作成のための、網羅的な文献情報収集方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ情報をさがすのか</li> <li>2. 参考文献について</li> <li>3. 図書資料検索</li> <li>4. 雑誌資料検索</li> <li>5. 電子ジャーナル検索</li> <li>6. 相互協力</li> </ol>	ガイダンステキスト アンケート カード目録

## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

種類	ねらい	概要	テキスト
④研究編(90分) 3、4年生 通年	卒業研究に向けた文献情報検索 文献リスト作成	研究テーマに即した文献収集の案内 文献リストの作成	ガイダンステキスト 相互協力申請書 アンケート カード目録

## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

- ▶ 教員依頼ガイダンス
- ▶ 授業の一コマを使う
- ▶ 内容は検索編+研究編を基本
- ▶ 学科や授業により内容を変更
  
- ▶ 参加率が非常によい
- ▶ 3、4年生ゼミが多い



## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

- ▶ 社会学科での基礎演習ガイダンス(180分)
- ▶ 情報リテラシーに関する内容+検索実習
- ▶ レポート・論文作成時の情報収集の重要性、情報収集方法の1つとしての図書館
- ▶ 図書館の仕事
- ▶ 学術研究と引用・参考文献
- ▶ 情報の取捨選択

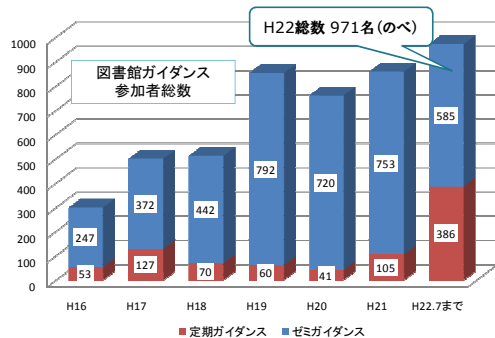


## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

- ▶ おおむね好評
- ▶ 主に任意参加だが、オリエンテーションなどで、一年生にはできるだけ参加するように呼びかけ
- ▶ 2名のガイダンス担当者(メイン1名、アシスタント1名)



## 2. 都留文科大学のガイダンス体系



## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

- ▶ 課題
- ▶ 研究編やゼミ単位ガイダンス時に、これまでガイダンスを受けていない、内容を忘れていた学生がいる。そのため研究編の前半で基礎編の内容を復習している。
- ▶ 任意参加の基礎編、研究編は参加者は、平成22年度はPRの効果により増えたが、新入生全員とはなっていない。

## 2. 都留文科大学のガイダンス体系

- ▶ ガイダンス実行時の注意点
- ▶ 担当者の異動等でガイダンス内容がかわらないように！！(H22年度は異動があった)

- ① 標準的なガイダンス内容の文書化・共有
- ② ガイダンステキスト(約40p)の整備
- ③ 複数担当者相互にガイダンスを経験

## 3. 情報リテラシーと利用者ガイダンス

- ▶ 社会学科のガイダンスをおこなう上で参考
- ▶ ACRL(アメリカ研究図書館協会)  
「高等教育のための情報リテラシー能力基準」<sup>3)</sup>

「情報が必要なときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用する」ことができるように、個々人が身に付けるべき一連の能力である。

### 3. 情報リテラシーと利用者ガイダンス

- ▶ 五つの能力基準(到達目標)
- ① 情報の性質と範囲を見定める
- ② 必要な情報に効果的かつ効率的にアクセス
- ③ 情報と情報源の批判的評価および選択した情報の知識に組み入れ
- ④ 個人またはグループとして効果的に利用
- ⑤ 情報の利用とアクセスに際して倫理と法律に反しないように利用する

### 3. 情報リテラシーと利用者ガイダンス

- ▶ SIST-02<sup>4)</sup>による参照文献の役割と要件
- ① 引用、参考文献の出典の明示
- ② 読者がアクセスするための十分な書誌事項の記述
- ③ 参照文献の明示は著者と読者共に既出の論点を整理し、新規性、独創性を明らかにする
- ④ 文献の明示は関連資料の提示と読者の研究分野の動向を確認・評価できる
- ⑤ 文献は信頼性確保のため一次情報が望ましい

### 3. 情報リテラシーと利用者ガイダンス

- ▶ 情報リテラシー活用の例
  - 小中学校等での調べ学習や主体的な学習
  - 高校、大学受験での情報収集
  - 就職や会社での情報収集、プレゼンテーション
  - 病気などに対する情報収集
  - 賢い消費者となるための情報の選択
  - よき市民として選択のための情報収集
- 情報リテラシーは現代社会においてすべての人が持つべき技術である。

### 4. 新しい「利用者ガイダンス」

- ▶ 図書館ガイダンスを越えて
- ▶ これまでの「図書館ガイダンス」の問題
- ① 図書館を利用する人が対象
- ② 「なぜ図書館を利用するか？」が抜けている
- ③ ガイダンスの効果がガイダンスをおこなう図書館の能力と司書の能力に制限される

あくまでもその図書館を使うためだけのガイダンスであった。

### 4. 新しい「利用者ガイダンス」

- ▶ 新しいガイダンスの形
- ▶ 学生はもとより地域の市民に対して
- ▶ 情報リテラシー獲得のためのガイダンス
- ▶ 地域の公共図書館と連携しながら
- ▶ 新しい地域貢献の形となるのではないか



### 4. 新しい「利用者ガイダンス」

- ▶ ガイダンスをしないと
- ガイダンスをしている他地域との格差が拡大
- その地域の自治・教育などが向上しない
- ▶ ガイダンスをすると
- ICT、物流の発展により、地方でもビジネスチャンスが生まれ、多くの情報を入手することができる。
- 住民の情報リテラシーの向上は、地域の自治意識の向上につながり、地域おこし、町おこしの基礎体力となる。

## ありがとうございました

- ▶ 効果的なガイドスはカウンター業務の負荷を軽減します。



## 引用・参考文献

- ▶ 1) 日経BP社, “日経ベンチャーonline ニッポンの社長へ: 日本一営業力がある社長”, [http://nvc.nikkeibp.co.jp/nveve/sprepo/2007/119\\_000878.html](http://nvc.nikkeibp.co.jp/nveve/sprepo/2007/119_000878.html), (参照 2007-11-22).
- ▶ 2) 山梨県立図書館, “県内各種図書館・読書施設”, 山梨県立図書館, 2007-11-18. <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/tosyokan/librarian/hakusho/hakusho2006/25-4address.xls>, (参照 2007-11-19)
- ▶ 3) ACRL/ALA, 日本語訳: 野末俊比古(青山学院大学), 改訳: 魚住英子(関西学院大学図書館), 小島勢子(国際大学松本下図書館・情報センター), “高等教育のための情報リテラシー能力基準”, [www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/InfoLiteracy-Japanese.pdf](http://www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/InfoLiteracy-Japanese.pdf), (参照 2007-11-12).
- ▶ 4) 科学技術振興機構, “SIST 02”, [http://sist-jst.jp/handbook/sist02\\_2007/main.htm](http://sist-jst.jp/handbook/sist02_2007/main.htm), (参照 2007-11-19)